

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 ICSU附置委員会対応小分科会 (G8及びICSU等分科会) 更新日 2012/9/28
(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際科学会議
(欧文) International Council for Science
(略称) ICSU

日本学術会議加入年(西暦) 1931 年

運営組織の名称・役員構成等

運営組織の名称(欧文) 総会(General Assembly)、執行委員会(Executive Board)、
役員会(The Officers)

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Yuan Tseh Lee	Gordon McBean	Malegapuru W. Makgoba(科学計画・評価担当) Sergio Pastrana(渉外担当)	Steven Wilson
(国)	台湾	カナダ	南アフリカ キューバ	イギリス

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

総会通常会合の6ヶ月前までに、指名委員会から各会員に対し、次期会長、事務局長、会計担当、副会長2名について、1人ずつ指名要請を行う。指名委員会は候補者名簿を提案し、総会通常会合の4ヶ月前に、ICSUの会員全員に対し送付。総会において所定の手続きに基き役員を選出を行う。

加入国・地域の数 140 ヶ国 31 ユニオンメンバー

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

ブラジル、中国、フランス、ドイツ、インド、イタリア、韓国、南アフリカ、イギリス、米国等

国際学術団体のホームページURL

<http://www.icsu.org>

国際学術団体の年間運営経費

4,584,996ユーロ(2011年支出)

日本の分担予定額[事務局で記入]

20,552千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
平成24年 (2012)	第13回ICSUアジア・太平洋地域委員会	マレーシア (クアラルンプール)	(構成員) 12名	1人	無
平成23年 (2011)	世界科学会議(WSF)	ハンガリー (ブダペスト)	約700人	10人	無
平成23年 (2011)	ICSU総会(第30回)	イタリア (ローマ)	約300人	5名(日本学術 会議関係者)	無
平成22年 (2010)	第9回ICSUアジア・太平洋地域委員会	マレーシア (クアラルンプール)	(構成員) 12名	1人	無
平成21年 (2009)	世界科学会議(WSF)	ハンガリー (ブダペスト)	約500人	16人	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
平成23年 (2011)	第104回理事会	キューバ (ハバナ)	(参加者数)* 14名	黒田玲子	1
平成23年 (2011)	第21回国際科学会議 科学計画評価委員会	フランス (パリ)	(参加者数) 15名	黒田玲子	1
平成22年 (2010)	第103回理事会	フランス (パリ)	(参加者数) 13名	黒田玲子	1
平成22年 (2010)	第20回科学計画評価 委員会	フランス (パリ)	(参加者数) 15名	黒田玲子	1
平成22年 (2010)	加重投票臨時委員会	フランス (パリ)	(参加者数) 8名	黒田玲子	1

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

- ・ Annual Report, Year Book (年1回)
- ・ ICSU Newsletter (不定期)

* ICSU(HP)議事録から参加者をカウント。

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p>国際機関等の提唱で行った活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Intergovernmental Science Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services (IPBES) : UNEP (国際環境計画) と共同 (2005年～) ・ International Polar Year (IPY) 2007-2008 : WMO (国際気象機関) と共同 ・ Future Earth Launch event : UNEP (国連環境計画), UNESCO (国際連合教育科学文化機関) 等との共同イニシアチブ (2012. 6. 14)
<p>国際機関等への提言等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WCRP-IGBP-GCOS-IPCC joint conference in Sydney to lay the scientific and observation basis for the fifth IPCC Assessment (2007) (IPCCの第5次評価作成に先立ち、上記4機関で会議を開き、科学データ面での貢献のあり方について検討) ・ Statement on the controversy around the 4th IPCC Assessment
<p>国際事業等への参加・実施等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Integrated Global Observing Strategy (1998～) ・ International Human Dimensions Programme on Global Environmental Change (1996～) ・ Rio+20 fund raising (2010～)
<p>全世界的/地域的研究課題への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ International programme on "Integrated Research on Disaster Risk: addressing the challenge of natural and human - induced environmental hazards (IRDR)" (2008～) ・ International programme on "Ecosystem Change and Human Wellbeing" (2008～) ・ World Date System (WDS) (2008～)
<p>発展途上国への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICSU Regional officeの設置 (現在、アフリカ、アジア・太平洋、ラテンアメリカ・カリブの各地域に設置されている。)。ICSU OfficersとICSU Regional Committees議長間の年次会合の開催。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 第30回総会 (2011年/ローマ) において、「第2次戦略計画」(2012-2017) について了承された。 ・ "Rio+20"として知られる国連持続可能な開発会議(2012年6月20-22日)において、Lee会長より、自然・社会両分野の科学者が団結して地球規模の持続可能性について研究を行う"Future Earth"(今後10年の学際的イニシアチブ)に着手する旨、発言があった。
--

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
CSPR (Committee on Scientific Planning and Review) 委員	春日 文子	2012	2015
Urban Health and Wellbeing 委員	花木 啓祐	2012	2015
IRDR (Integrated Research on Disaster Risk Programme) 副議長(Vice Chair)	竹内 邦良	2012	2015
RCAP (Regional Committee for Asia and the Pacific) 委員	山形 俊男	2011	2013
CODATA(The Committee on Data for Science and Technology) 副委員長(Vice President)	五條堀 孝	2010	2014

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 ICSU附置委員会対応小分科会(G8及びICSU等分科会)

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

・ ICSUに加盟している各国際学術団体(ユニオン)に国内関係学協会が参加している。

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
WDS-IPO (International Programme Office for World Data System) (独立行政法人 情報通信研究機構)		http://www.nict.go.jp/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

ICSU附置委員会対応小分科会(G8及びICSU等分科会)
(国際委員会)

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
春日文子	山形俊男		

会員数	連携会員数	特任連携会員数
3	3	3

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

・ ICSUの活動に関し、日本学術会議の関連委員会と連携をとり、ICSUナショナルメンバーとしての対応方針をとりまとめている。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/9/12	第22期: 第1回ICSU附置委員会対応小分科会 (1) 小分科会の趣旨説明 ・ 委員長の互選 ・ 副委員長及び幹事の選出 (2) ICSUの各組織の活動と課題紹介 (3) 今後の予定、展望等の議論 (4) その他
2012/2/3	第22期: 第1回G8 及びICSU 等分科会、第1回G8 2012 小分科会 合同会議 (1) 委員長の互選について (2) G8学術会議について (3) その他
2011/6/21	第21期: 第4回ICSU分科会 (1) ICSUの活動に関する報告 ・ 理事会報告 ・ 総会に向けての今後の対応 (2) ICSU理事の推薦について (3) 加重投票について (4) Fund-raising (Rio+20) について (5) その他
2010/10/12	第21期: 第3回ICSU分科会 (1) ICSUの活動に関する報告 ・ 加重投票 ・ WDS ・ ICSU/RCAP委員推薦 ・ CSPRの状況 ・ Rio+20 (2) 加重投票要望国とICSU役員との会合及びICSU理事会への対処方針 (3) その他

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- ・平成21年12月14日(月)に、黒田玲子委員長が講演会「ICSUと学術コミュニティ」を開催し、活発な質疑応答があった。
- ・平成24年5月9日(水)にWDS-IP0の開所式があった。開所式に関して、日本学術会議HP、日本ニューズメールの広報を行い、WDSについて「学術の動向」への寄稿を行った。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

特記事項なし

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

特記事項なし

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

- ・ICSU分科会委員長は、Vice President(渉外担当)としてICSUの活動に貢献した。
- ・ICSU各種委員会に日本学術会議から推薦した者が着任し、ICSUの活動に貢献している。
- ・ICSUの各種調査、意見照会等に協力し、我が国の意見をICSUの活動に反映させている。